

Society 5.0時代の東京 —デジタル革新を通じた国際競争力の強化—

I. はじめに

都市の国際競争力強化 その都市にとどまらず、国全体の経済成長を実現するうえで不可欠。

世界の他の主要都市に比して東京の国際競争力は伸び悩んでいるとの指摘。
スマートシティに関しても他都市に後れをとる。少子高齢化、建築物・インフラ老朽化等の課題も。

多様なステークホルダーの連携のもと、従来の都市マネジメント施策の一層の拡充とともに、
革新的なデジタル技術と多種多様なデータを駆使して、都市活動の様々な領域において
分野横断的に社会課題の解決や新たな価値の創造を目指すスマートシティの実現が急務。

II. Society 5.0時代の東京

東京の
スマートシティ化

Society 5.0の総合的なショーケース

既存の都市（ブラウンフィールド）におけるスマートシティ構築のモデル

Society 5.0時代に東京が体现すべき都市の姿

新たな価値を創造する都市

ユニバーサルデザインを備え、
多様な人々が快適に過ごせる都市

効率的で強靱な交通・インフラを備えた
安全・安心な都市

環境に配慮した持続可能な都市

東京都や国とも基本的な方向性を共有。国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成にもつながる。

III. 国際競争力強化に向けた施策

1. 推進体制の構築とビジョンの策定

- どの課題を、何の技術によって、どのように解決するかについての明確なビジョンの策定
- 東京都全体および都内各エリアにおける、住民、企業等の参画によるスマートシティ推進組織の設立

2. 都市活動を支える基盤の整備

(1) データ・新技術活用に向けた環境整備

各主体が個別に収集、保有している様々な都市関連データを共通の都市データプラットフォームにて一元的に管理。分野・組織を超えたデータ活用とサービス提供を可能に。

- 都市データプラットフォームの整備（活用実績のあるOSSの採用、サイバーセキュリティ確保）
- 行政データの利用拡大（東京都・23区保有データのオープン化、行政手続デジタル化等）
- 個人データ・企業データの流通促進（プライバシー保護の仕組みの構築等）

(2) 再開発・リノベーションの推進

老朽化建築物の更新などが課題。
再開発・リノベーションを一層推進し、
建築物のミクストユースなど都市空間の再編成を。
文化・自然も活用したコンセプトに基づく
エリア体系的な街づくりを期待。
デジタル革新との相乗効果を得られるような
再開発・リノベーションも必要。

- 再開発の加速（各種規制改革、PPP/PFI活用）
- リノベーションの推進（エリアマネジメントの拡大、公共空間の活用）

3. 4つの将来像に向けて取り組むべき施策

(1) 新たな価値を創造する都市

将来像

- データと新技術を活用したスタートアップや新ビジネス・サービスが次々と誕生。
課題解決と価値創造が絶えず行われ、発展し続ける都市に。
- 国内外から多様で優れた人材や、革新的なビジネスモデルや技術を有する企業等が集積。

課題・ニーズ

- スタートアップ、新ビジネス・サービスの継続的創出
- スタートアップ環境の低評価、開業率の低さ
- 外国人材・海外企業の誘致による多様性向上

主な施策

- ✓ イノベーションハブの設置
- ✓ スタートアップ支援策の強化（スマートシティ施策と一体的な支援策）
- ✓ 実証実験環境の整備（国家戦略特区制度の活用等）
- ✓ 外国企業・起業家誘致策の活用促進・拡充（スタートアップビザの導入検討）
- ✓ 「国際金融都市・東京」構想の推進

(2) ユニバーサルデザインを備え、多様な人々が快適に過ごせる都市

将来像

- 高齢者、子育て世代や外国人など、あらゆる人々が多様な生活や幸福を追求できるユニバーサルな生活空間が形成。
- 個々のニーズに合わせたサービス提供で、多様な人々が想像力・創造力を発揮できる環境に。

課題・ニーズ

- バリアフリー化の遅れ
- 生活者としての外国人の目線に立った医療・教育等各種サービスの利便性向上
- 高齢化による医療・介護ニーズの高まり
- 子育ての施設・担い手不足

主な施策

- ✓ 歩行者空間拡大、段差解消等の推進
- ✓ データ収集・分析による歩行者等への移動支援
- ✓ 医療の多言語対応（ITツール活用、外国人医師受け入れ拡大等）
- ✓ インターナショナルスクールの拡充
- ✓ ヘルスケア分野のデータの相互連携
- ✓ デジタル化による育児・介護現場の省力化

(3) 効率的で強靱な交通・インフラを備えた安全・安心な都市

将来像

- 交通分野では、出発地から目的地まで円滑かつ快適な移動が実現し、人々の可処分時間が増大。
- 物流について、各企業での輸送計画最適化や市街地・港湾物流の効率化・省人化が実現。
- 大規模災害に備え、平時から効率的かつ効果的な建築物・インフラ強靱化が推進。
災害発生時には、情報の共有・分析により避難誘導、緊急物資輸送等を最適化。

課題・ニーズ

- 鉄道の混雑
- モビリティサービスの改善
- 空港の機能強化
- 物流業の人手不足
- 港湾の渋滞
- 建築物・インフラ老朽化
- 災害時の情報共有

主な施策

- ✓ 交通需要抑制（テレワーク等の推進）
- ✓ 交通関連データの共有と交通事業者間の連携
- ✓ 空港の発着枠拡大と空港～都心部のアクセス性向上
- ✓ 物流の効率化・省人化（シェアリング、自動走行ロボットによる配送、京浜港全体の連携強化等）
- ✓ 災害シミュレーションに基づく防災性向上
- ✓ 「災害情報ハブ」の早期実現

(4) 環境に配慮した持続可能な都市

将来像

- エリア単位で効率化し、資源・エネルギー効率の向上と全国大での需給最適化に貢献。
- 廃棄物処理や3R推進施策の高度化の基盤を形成し、世界最先端の循環型社会を実現。
- 高い持続可能性を評価される、先進的な環境・エネルギー都市を体現。

課題・ニーズ

- エネルギーの効率的利用
- エネルギーの低炭素化
- 先進的な循環型社会の構築
- フードロス削減

主な施策

- ✓ 系統電力と分散型エネルギー源の組み合わせ最適化
- ✓ 電力データ活用環境の整備
- ✓ 非化石エネルギー源利用拡大、水素エネルギー活用促進、ZEB・ZEHの開発・普及促進
- ✓ 廃棄物処理分野における情報電子化
- ✓ ITによる廃棄物自動分別、トレーサビリティ精緻化

IV. 終わりに

「スピード感」と「多様なステークホルダーの視点」が不可欠。データプラットフォーム導入を1年以内に。